

製品名: Raf-1 (リン酸化 Ser621) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05339**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	73kDa

抗原情報

遺伝子名	RAF1
別名	RAF1; RAF; RAF proto-oncogene serine/threonine-protein kinase; Proto-oncogene c-RAF; cRaf; Raf-1
遺伝子 ID	5894.0
SwissProt ID	P04049
免疫原	抗血清は、Ser621 のリン酸化部位周辺のヒト C-RAF 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 591-640

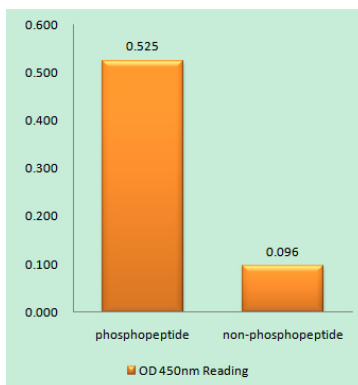
背景

この遺伝子は、ウイルス性 raf 遺伝子 (v-raf) の細胞ホモログです。コードされているタンパク質は MAP キナーゼキナーゼキナーゼ (MAP3K) であり、膜結合型 GTPase である Ras ファミリーの下流で機能し、この Ras ファミリーに直接結合します。活性化されると、細胞内の RAF1 タンパク質はリン酸化され、二重特異性タンパク質キナーゼである MEK1 および MEK2 を活性化します。MEK1 および MEK2 は、さらにリン酸化され、セリン/スレオニン特異的タンパク質キナーゼである ERK1 および ERK2 を活性化します。活性化 ERK は細胞生理学における多面的エフェクターであり、細胞分裂周期、アポトーシス、細胞分化、細胞遊走に関わる遺伝子発現の制御において重要な役割を果たします。この遺伝子の変異は、ヌーナン症候群 5 および LEOPARD 症候群 2 に関連しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: サブユニットあたり 2 個の亜鉛イオンを結合します。疾患: RAF1 の欠陥は、LEOPARD 症候群 2 型 (LEOPARD 症候群 2) [MIM:611554]の原因です。LEOPARD 症候群は、ヌーナン症候群と対立遺伝子を持つ常染色体優性疾患です。頭字語 LEOPARD は、黒子、心電図伝導異常、眼間開離、肺動脈狭窄、性器の異常、成長遅延、および難聴を意味します。疾患: RAF1 の欠陥は、ヌーナン症候群 5 型 (NS5) [MIM:611553]の原因です。ヌーナン症候群 (NS) は、顔貌異常、低身長、眼間開離、心奇形、難聴、運動遅延、出血性素因を特徴とする疾患です。遺伝的に異質で比較的良好に見られる症候群であり、発生率は出生児 1,000~2,500 人に 1 人と推定されています。機能: 細胞膜から核への分裂促進シグナルの伝達に関与します。受容体から核への Ras 依存性シグナル伝達経路の一部です。STK3 を介したアポトーシスから細胞を保護します。PTM: DNA 損傷時にリン酸化されますが、おそらく ATM または ATR によるものです。Thr-269 のリン酸化はキナーゼ活性を高めます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。RAF サブファミリー。類似性: ホルポールエステル/DAG 型ジシンクフィンガーを 1 つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。類似性: RBD (Ras 結合) ドメインを 1 つ含む。サブユニット: Ras タンパク質と相互作用する。この相互作用は RIN1 によって拮抗される。RIT1 とは弱く相互作用する (類似性による)。STK3 と相互作用する。この相互作用は STK3 のアポトーシス誘導活性を阻害する。YWHAZ (Thr-232 がリン酸化されていない) と相互作用する。組織特異性: 骨格筋では、アイソフォーム 1 がアイソフォーム 2 よりも豊富に存在する。、

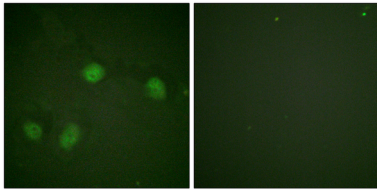
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;ErbB_HER;ケモカイン;血管平滑筋収縮;VEGF;接着斑;ギャップ結合;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害;T 細胞受容体;B 細胞抗原;Fc イプシロン RI;Fc ガンマ R を介した貪食;長期増強;神経栄養因子;長期抑制;アクチンと細胞骨格の調節;インスリン受容体;GnRH;プロゲステロンを介した卵母細胞成熟;メラニン形成;がんにおける経路;結腸直腸がん;腎細胞がん;膵臓がん;子宮内膜がん;神経膠腫;前立腺がん;黒色腫;膀胱がん;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;非小細胞肺癌;

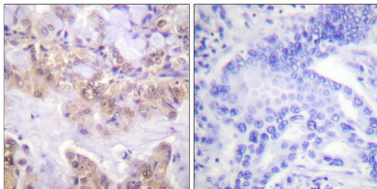
画像データ



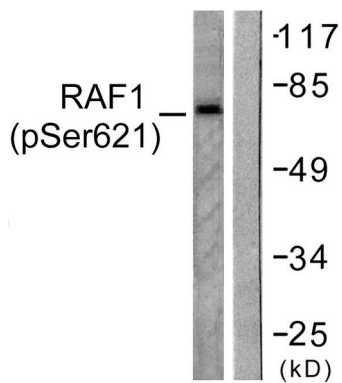
C-RAF (リン酸化 Ser621) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



C-RAF (リン酸化 Ser621) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



C-RAF (リン酸化 Ser621) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 5' 処理した HeLa 細胞ライセートの C-RAF (リン酸化 Ser621) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。